

京都教区時報

第158号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

座談会

私の生活と平和

(出席者)	田中麻美	(編集部)
石原祐子	松井由美	青木公子
加瀬弘子	村上透磨	磯野真知子
田中健一	柳本昭	

日常生活の中で、私たちはどのように平和を考えているでしょう。今日は話の材料として私たちが毎日のように唱える「主の祈り」と私たちの生活を照らしあわせ話していきたいと思います。

私たちの生活と「主の祈り」

青木 主の祈りの後半「日用の糧を今日われらに与えたまえ」とありますがわたしにくださいではなく、われらになつてゐる。このわれらになつてゐる意味を自分自身の生活だけでなくもっと広げて考



青木公子 子えてみたとき、日本はいろいろなものを個人国のものにして

いると思った。それから主の祈り方が変わった。自分の家庭だけの平和という小さな考えから大きくとらえた平和とはということに目がいくようになったと思う。

田中司教 平和というとすぐに連想したのが、教皇の平和メッセージです。教皇の話の中にいつも正義、自由、平等、愛という4つの柱がでてきます。この4つの柱と主の祈りとを重ねて考えていくことができるのでは。

柳本 今年には平和への歩みにかかわっているんですが、私たちが「平和」という時に、自分たちの生活のレベルとは別のところで「平和」を考えている傾向がある。特に教会の中でそれを感じる。ミサの中で「主の平和」と目頃のいろいろの思いはにおいていてニコニコして挨拶をしている。だけど自分の生活をおいておいて平和を考えることはまずできない。聖書に「私は平和ではなく、剣をもたすために来た」という言葉がある。



柳本昭



石原祐子

キリスト者としては痛みを感じることが必要だと思ふ。それは、表面的な平和は一度剣によって碎かれるということ。そこから本当の平和がくるのではないだろうか。石原 平和をいう時、正義がなければ平和がないとか差別あるところには平和がないとかよく聞きますが、そういう問題をどれだけ自分の問題として考えられるかがポイントだと思ふ。それは環境、食糧、差別のことで、自分の問題として考えられるかということが大きな出発点。日本人が朝鮮人を見る目は人が人を見る目ではないと言われますが、その偏見の曇った目を自分が持っているということ。自覚し、痛みを感じるところがスタートだと思ふ。それから教会は正義の側にたつんだというように感じることがある。私たちが一人一人の中に、人が人を見る目がない目があること、そして教会、私たち一人一人のあり方が実は正義の味方ではない、見直すべき一人一人であるというところから出発すべきではないかと思ふ。教会の中に外国人労働者が来て入れるだろうか、教会

の中で在日朝鮮人が本名を本当にのれるんだらうかということ私たち一人一人が考えていきたい。松井 私は、主の祈り自体はそんなに難しくなく日常生活にそった身近なものと思う。だけど、それが先生とか、神父さんたちが説明されるとやたら難しくなる。

青木 説明されるとよけいにかげ離れるということがよくありますね。

田中 最近正義のために働いている人たちと出会う中で、悲しくなっていくてしまっている。それはお互いの異った思いを受け入れられず、どちらかを正統化することで終わってしまう場面に出会う時、純粹なだけに異ったものが受け入れられない。自分と異ったものを受け入れられず、自分の方に優越をつけ、そのため劣っているとかが、きたないと言った差別する。だから、先ほど言われた「自分自身の中にある偏見の目、私は正義の味方ではない」ということをつねに反省し、自分自身に照らしていかないといけないと思う。



村上「大地の恵み、労働のみの中」とミサの中で唱えるけど、



美 この大地が、小麦粉をくれない世界もある。かわっている世界、

飢饉で苦しむアフリカ。主の祈りの中で「今日のパン下さい」という。はっとした。パンとブドウ酒の中に現実があるんだと。そしてイエスの身体をいただく、これはすごい。もう一つ気がついたことは「天にましますわれらの父よ」という。「父よ」と叫ぶのは私たち人間だけではなく、宇宙も叫んでいる。宇宙も生きる権利がある。森羅万象みんな叫んでいる。主の祈りは本当に平和という問題を含んでいる。そのため共感しながら祈るといことが大切だと思う。

自分の生活と平和

なぜかけはなれてしまうのか

石原 かけはなれるということが大きな問題だと思ふ。このことはまず知ろうとしないということに関係があると思う。教会としても、個人としても、見ていないなら取りあえずいいとか、知らなければなんとなくすんでしまふとか、逃げたいという気持ちがあると思う。さきほど「気づかせる」というこ

とがでたが、気づいた人たちは透磨具体的に知らせる必要が。村



村

田中 波かぜたたせず、平穏をよそおうそれが弱さかもしれない。だけど、自分がすぐに関わられなくても少なくとも知るといこと、痛いなどということを感じてほしい。一つでも痛いと思つたら何かしようということになってくるのでは。

田中司教 「知らないことより、知りたくないといことの方が罪が重い」と何かにでていた。毎日毎日の生活の中に折り込んでいくことでつながっていくと思ふ。

磯野 教会の中にも、たくさん気づいている人があると思ふ。それをどういふふうに進んで知らせているだろうか。

自分の使命として努力しているか疑問に思ふ。そして、教会の中で「私はいかような問題の学習会に行つた」といことを分かち合うことができますか。



田中 小さい時は神の目をきにしていた。それが、弘大人になるにつれ、その意識が薄れてきている。



美 もっと神の目を麻意識すれば、知らないはずではない。

加瀬 いろいろ私も、教会の中でやっています、キリストにならうてやっているといことは、そのうの覚悟がある。私たちがそれだけの覚悟ができていのかと思ふ。

——1時間半の座談会でいろいろな話がありました。紙面の関係上割愛している部分があり、読みにくい点があることをおゆるし下さい。しかし、この座談会をとおして、私たちは日常生活の中で知るといこと、気づくといことを確認しました。そして知り、気づき、自分の痛みとしたなら、誰にたたかれようが、キリストのように一歩踏みだし伝えていきたいと思ふます。いつも自分の生き方を見直しながら……。

さあ、行きましよう、行つて伝えましよう、一歩踏みだして、



磯野真知子



8月だからこそ 平和について考えよう

平和だからなにもしなくていいのじゃない。平和だからこそなぜ平和なのか、どうして平和なのかを1歩ふみこんで考えたい。

90年平和への歩み

隣人を大切にしよう

— 自己中心からキリスト中心へ —

このメインテーマをもとに、早いところでは5月から学習会が開かれていきます。各地の学習会・講演スケジュールは左記のとおりです。みなさんの興味引かれる内容がきつとあると思います。まず聞いてみようかなという思いから、平和への気持ちは始まります。私には関係ない、私は知りたくない、もう知っていると言いきってしまわず、なにか新しいことが聞けるのではないかと一歩ふみだしてみよう。

各地の学習会スケジュール

■京都南部

★第1回 8月12日(日)

1部 講演とビデオ PM2時

— 台所から平和を作ろう —

カトリック会館6階ホール

2部 平和行進

出発式 PM4時

行進 PM5時

河原町カトリック教会

★第2回 9月30日(日)

講演とビデオ PM2時

— 原子力発電について —

★第3回 10月21日(日)

講演と分かち合い

— 被爆の体験から —

講師・長谷川 儀師

西院カトリック会館ホール

★第4回 11月3日(祭)

ウォーカーソン・白ロシアの子

供たちのため

〔平和への歩み南部委員会〕

■京都北部

毎週水曜日に平和への歩み学習会

を丹後青年連合会が開いています。

PM8時~9時半まで・会場・宮津

グラチアホーム(聖母訪問会修道院)

■三重

各教会で7月から平和のための共同祈願をしています。また勉強会

は各教会でそれぞれ開いています。

■奈良

原則として第3日曜日のPM2時~4時までとします。

★8月12日(日)「平和への歩み」協賛

第7回全体学習会・講演とパネル展「生きるための連帯」

Sr橋本(部落問題委員会事務局)会場・奈良教会

局)会場・奈良教会

★9月16日(日)「差別と解放の歴史」

(No.3) — 部落史の見直し —

テキスト・ビデオ「けいはつ」

会場・郡山教会

★10月21日(日)「差別と解放の歴史」

(No.4) — 部落史の見直し —

テキスト・ビデオ「けいはつ」

会場・八木教会

★11月18日(日)「差別と解放の歴史」

(No.5) 「金ヶ崎越冬」をひか

えて・講師・一場修氏・会場

郡山教会

★1月20日(日)「差別と解放の歴史」

(No.6) — 部落史の見直し —

テキスト・ビデオ「けいはつ」

会場・八木教会

★2月17日(日)「差別と解放の歴史」

(No.7) — 部落史の見直し —

テキスト・ビデオ「けいはつ」

会場・郡山教会

★3月17日(日)「差別と解放の歴史」

(No.8) — 部落史の見直し —

テキスト・ビデオ「けいはつ」

会場・八木教会



第5回「アジア・太平洋地域の戦争犠牲者に

思いを馳せ、心に刻む集会」の案内

朝鮮侵略特集にあたって

敗戦45周年の今年に、最も近くの国であり、最も長期にわたって苛酷に侵略しつづけた国の一つを「特集」することになったのは、意味深いことと思います。日本はかつて韓国・朝鮮の土地と資源と財産を強奪し、自由をふみにじっただけでなく、数えきれない多数の生命さえも奪ったのですが、今に至るまで、国家として十分な反省や補償を行わないままに今年「日韓併合」の80周年を迎えようとしています。延べ36年間におよぶ植民地支配のもと、「皇民化政策」を徹底させ、「内鮮一体」をスローガンにして無謀な戦争へとかりたて、言葉や名前・土地を奪ったうえに、強制連行、徴用、徴兵という形で、日本敗戦当時は実に240万人もの人びとに日本在留を強いたのです。さらには、南北分断の原因を作り出しただけでなく、戦後は南北分断の固定化に加担し続けたのも日本です。にも

かわらず日本政府は、その責任にほおかむりをし、現在約70万の在日韓国・朝鮮人への差別と抑圧の政策を押し通しているのです。

今年5月の盧泰愚大統領の来日にかかわる日本政府の対応にしても、政治的配慮の範囲を出ず、心からの謝罪には到底及びませぬでした。今こそ私たちは、そのような日本政府の対応を越えて、民衆レベルでの交流と相互理解、共生への道を進むべきときではないでしょうか。歴史的に最も深い関係を持つてきた隣国民衆との交流と理解を阻んでいる壁を打ち破る努力を強めたいと思います。昨年の昭和天皇死去と今秋の新天皇即位の礼、大嘗祭を前にして、この国のあり方が内外に注目されているときに当り、まことに今年こそ日本の植民地支配が、韓国・朝鮮に何をもたらしたかを、真剣に、徹底的に追究すべきだと考えます。

—— 第5回趣意書より抜粋 ——

- ◆広島集会 ◆8月6日(月)PM 2時〜5時・カトリック幟町教会082(221) 0621 JR 広島駅から南西へ徒歩5分・主催・広島集会実行委員会
- ◆金沢集会 ◆8月9日(木)PM 5時半〜9時・石川県教育会館2F大会議室0762(22) 1241 金沢市香林坊・主催・金沢集会世話人会
- ◆京都集会 ◆8月9日(木)PM 6時〜9時・京都カトリック会館075(256) 3172 河原町三条上ル・主催・京都集会実行委員会
- ◆高山集会 ◆8月10日(金)PM 7時〜9時半・真宗大谷派不遺寺本堂・0577(32) 3900 JR 高山駅下車・主催・高山集会
- ◆三重集会 ◆8月14日(火)PM 1時半〜4時半・三重県水産会館ホール0592(27) 3121 JR 近鉄津駅下車2分・主催・三重集会実行委員会
- ◆大阪集会 ◆8月15日(水)AM 10時〜5時・大阪YMCA会館ホール06(441) 0893 地下鉄肥後橋下車

召命黙想会のご案内

テーマ 祈りと働き

日時 9月29日(土)〜30日(日)
 場所 善きサマリア人会修道院
 指導 養成担当シスター
 対象 未婚の女性信徒
 持参品 聖書、エプロン、洗面用具
 運動靴、ロザリオ
 会費 3,000円
 ▼申込〆切9月20日(木)までハガキまたは☎でSr浜崎まで
 〓奈良市法蓮町743善きサマリア人会修道院
 ☎0742(22) 6160



自分の生活が平静なのが平和なのだと考えてしまうが、自分の生活に石を投げ入れ、いつも波紋を描かせていることこそ、平和に対する正しい態度だ、と思う。石がちよっときつければ、夕立の後のしずくから始めてみよう。(き)
 座談会のテーマを聞きながら、ぜんぜん話にまともりが無い。だけれどその中で共通していたこと、日常生活と「かけはなれている」ということ。これは大きな問題、みなさんは気づいていますか。(い)